

容器包装の3R 推進のための自主行動計画
2008年フォローアップ報告

2008年12月

3R 推進団体連絡会

ガラスびんリサイクル促進協議会
PET ボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会

事業者による3R 推進の2007年度実績概要

- リデュース： 2010年目標に向け、着実にリデュースが進んでいます。
- リユース： リターナブルシステムの調査研究を行いました。
- リサイクル： リサイクル率・回収率は目標に向け着実に向上しています。

主体間の連携に資する取り組み

- 八団体共同の取り組みの展開：
 - ・独自企画の連携イベント開催：フォーラム、セミナー、3Rリーダー交流会
 - ・各種展示会への共同出展を行いました。
 - ・AC（公共広告機構）で容器包装のリサイクルをPR
 - ・ホームページを開設
- 共通テーマ（普及啓発と調査研究）に基づき各団体の取り組みを展開

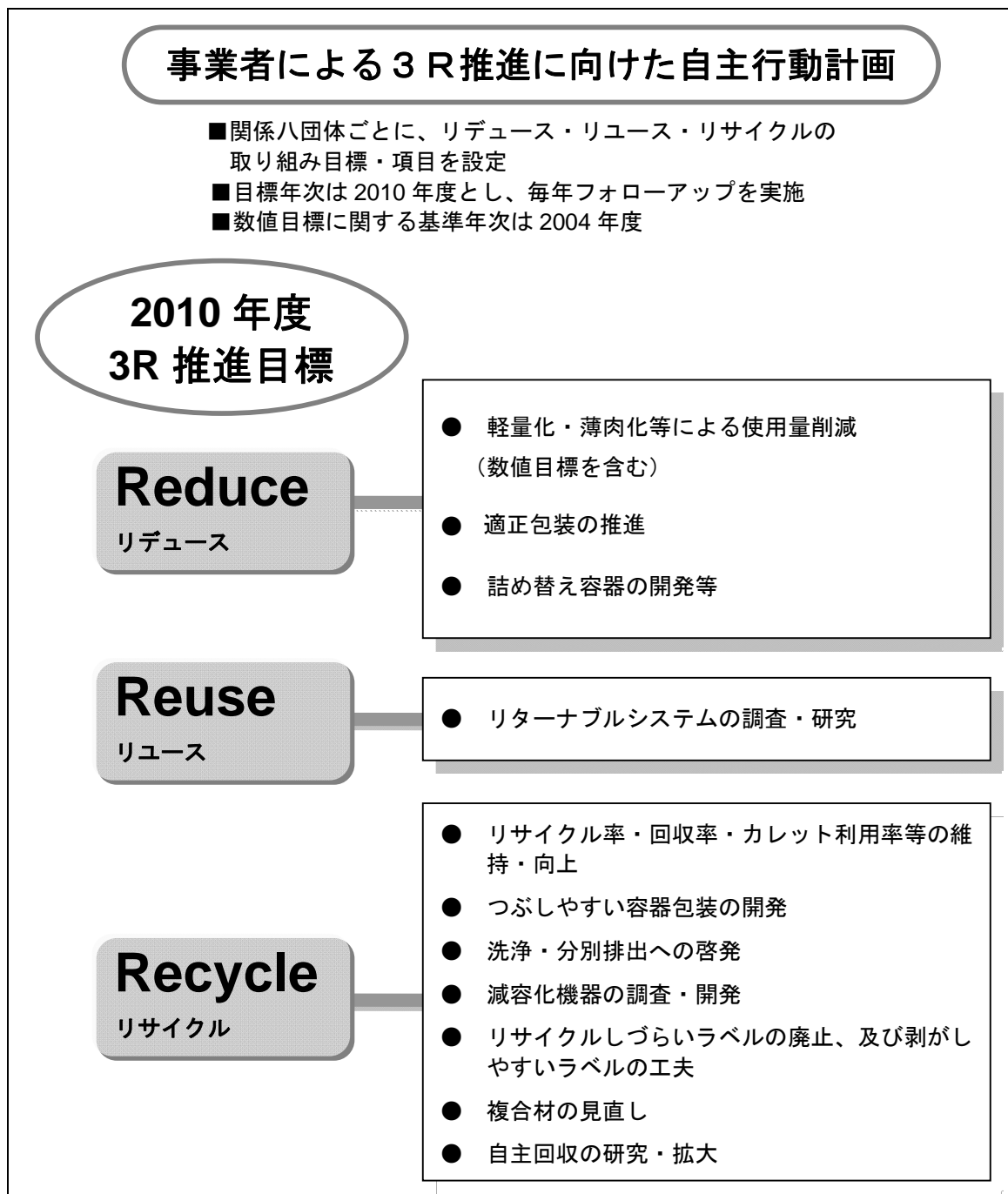
目 次

はじめに	1
1. 事業者による 3R 推進の 2007 年度実績概要	3
1.1 リデュース	3
■軽量化・薄肉化等による使用量削減（数値目標）	3
■適正包装の推進／詰め替え容器の開発等	4
1.2 リユース	4
1.3 リサイクル	5
■リサイクル率・回収率・カレット利用率等の維持・向上（数値目標）	5
■事業者の取り組み	5
1.4 その他識別表示等の推進	6
2. 主体間の連携に資する取り組みの実績概要	7
2.1 関係八団体共同の取り組み	7
2.2 共通のテーマに基づく各団体の取り組み	10
3. 今後の取り組み	13
2007 年度団体別フォローアップ結果	15
ガラスびんリサイクル促進協議会	16
PET ボトルリサイクル推進協議会	20
紙製容器包装リサイクル推進協議会	24
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	28
スチール缶リサイクル協会	32
アルミ缶リサイクル協会	36
飲料用紙容器リサイクル協議会	40
段ボールリサイクル協議会	44

はじめに

容器包装に係るリサイクル八団体で構成される「3R 推進団体連絡会」（以下、「連絡会」という。）は、2006年（平成18年）3月28日に「容器包装の3R 推進のための自主行動計画」（以下、「自主行動計画」という。）を公表し、各事業者の自主的な取り組みによる容器包装の3R 推進、及び主体間の連携に資する取り組みの推進を表明しました。

自主行動計画は2010年度を目標年次とし、下図のとおり「事業者による3R 推進に向けた自主行動計画」、及び「主体間の連携に資する取り組み」を2本の柱としています。このフォローアップは、自主行動計画の2年度目にあたる2007年度の取り組み結果をまとめたものです。



主体間の連携に資するための行動計画

■消費者に対する普及啓発活動や、各種調査・研究活動への参画・実施を通じ、消費者・自治体・国等との連携に資する取り組みを展開

関係八団体共同の 取り組み

容器包装廃棄物の3R推進・普及啓発のため、

- フォーラムの開催
- セミナーの開催
- 各団体ホームページのリンク化・共通ページの作成等による、情報提供の拡充
- エコプロダクツ展への共同出展

各団体が取組み 共通のテーマ

■情報提供・普及活動

- (各団体の既存の取り組みの活用も含む)
- ・環境展等の展示会への出展協力及び充実
- ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO・学校等主催のイベントへの協賛と協力
- ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO等の研究会への参加と協力
- ・3R推進・普及啓発のための共同ポスター等の作成

■調査・研究

- ・分別収集・選別保管の高度化・効率化等の研究会への協力
- ・分別収集効率化等のモデル実験への協力
- ・リターナブルびんのモデル実験の実施
- ・店頭回収・集団回収の高度化及び品質向上化等の研究会への協力
- ・消費者意識調査の実施

1. 事業者による 3R 推進の 2007 年度実績概要

事業活動における容器包装の 3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進については、2004 年度を基準年次、2010 年度を目標年次として、関係八団体ごとに数値目標・取り組み目標等を立てています。2007 年度取り組み実績の概要は以下のとおりです。計画及び実績の詳細については、各団体の発表資料をご参照ください。

1.1 リデュース

2010 年目標に向け、着実にリデュースを推進しています。

リデュースは地球資源の保護の観点から優先的に取り組むべき事項として、循環型社会形成推進基本法にも掲げられており、当連絡会でも容器包装の軽量化・薄肉化や適正化等に取り組んでいます。

■軽量化・薄肉化等による使用量削減（数値目標）

容器包装は様々な形状がありますので、リデュースの数値目標は各容器の特性に合わせた指標を採用しています。表 1 に見るとおり、多くの素材で着実にリデュースを推進しています。

軽量化や薄肉化を進めるに当たっては、容器包装に本来求められる機能、すなわち「安全・安心」のための品質の保持、運搬時の内容保護などの機能を損なわないようにすることが求められます。さらに、トータルのエネルギー使用量や地球温暖化ガスの増加が伴わないよう、配慮する必要もあります。これらの課題を乗り越えるための技術開発、設備投資も含め、各団体とも 2010 年度目標に向けた着実な取り組みを進めていく所存です。

表 1 リデュースに関する 2007 年度実績（2004 年度比）

素材	2010 年度目標 (2004 年度比)	2007 年度実績	(参考) 2006 年度実績
ガラスびん	1 本あたりの平均重量を 1.5%軽量化する。	1 本あたりの平均重量を 1.3%軽量化	1 本あたり平均重量 2.4%減 軽量化重量は約 3,000 トン
PET ボトル	主な容器サイズ・用途ごとに 1 本あたりの平均重量を 3%軽量化する。	主な容器サイズ・用途計 15 種のうち 8 種で 0.9%～10.0%軽量化	主な容器サイズ・用途 15 種の 内 9 種で 0.2～8.0%軽量化
紙製容器包装	2%削減する。	0.5%削減	変化無し
プラスチック製 容器包装	3%削減する。	①事例として把握した 削減量 4,617 トン ②原単位改善効果の換 算値 4,293 トン	①事例として把握した削減量 1,339 トン ②原単位改善効果の換算値 4,900 トン

(表1 続き)

素材	2010年度目標 (2004年度比)	2007年度実績	(参考) 2006年度実績
スチール缶	1缶あたり平均重量で2%軽量化する。	1缶あたりの平均重量を1.1%軽量化	1缶あたり平均重量1.0%軽量化
アルミ缶	1缶あたり平均重量で1%軽量化する。	1缶あたりの平均重量を0.5%軽量化	1缶あたり平均重量0.7%軽量化
飲料用紙容器	重量を平均1%軽量化する。	変化無し	変化無し
段ボール	1㎡あたりの重量を1%軽量化する。	1㎡あたりの平均重量を0.7%軽量化	1㎡あたり0.6%軽量化

■適正包装の推進／詰め替え容器の開発等

リデュースのための包装の適正化、詰め替え容器の開発等も各企業により進められています。その数値的な効果は把握できておりませんが、例えばプラスチック製容器包装では、ボトルキャップ、ラベル、ヨーグルトカップ等の軽量化、洗剤容器のコンパクト化、菓子類のフィルムの薄肉化、等々の取り組みを進めています。また、紙製容器包装リサイクル推進協議会では、実績を上げている各社の成果をまとめた「3R改善事例集」を制作し活用することで、業界全体のレベルアップを図るべく取り組みを進めています。

1.2 リユース

リターナブルシステムの調査研究を開始しました。

リターナブルびんの需要は、容器包装リサイクル法施行以前より減少しており、普及に向けては、消費者の意識喚起や新たなルート構築などが求められます。

ガラスびんリサイクル促進協議会においては、経済産業省「地域省エネ型リユース促進事業—大手量販店におけるリターナブルびん商品の販売促進システムの構築」の委託事業を実施し、量販店におけるリターナブルびんの販売促進の可能性について研究しました。

また2008年度より、リターナブルびんに関するさまざまな情報（リターナブルびんを販売する企業及び商品の検索ナビ・リターナブルびん市場別解説・リユース促進モデル事業解説・LCA評価・リターナブルびん促進に向けた消費者団体等のさまざまな取組み等）を一元化した「リターナブルびんポータルサイト」の立上げ（2009年2月）を準備しています。また日本酒中央会においては、300mlを中心としたRマークびんの回収システムの構築に向けた研究会も始動し始めています。

PETボトルリサイクル推進協議会においては、ヨーロッパを中心にリターナブルPETボトルの動向について、調査・研究を引き続き行いました。2008年3月から始まった環境省の「ペットボトルを始めとした容器包装のリユース・デポジット等の循環的な利用に関する研究会」に参加し、これまでの調査・研究結果を踏まえて、国内外のリターナブルPETボトルの経緯を示し、安全性が確保できない現状ではリターナブルPETボトルを導入することは非常に難しいとの意見を述べました。（今後の取組みについては、p.22を参照下さい。）

1.3 リサイクル

リサイクル率・回収率は目標に向け着実に向上しています。

■リサイクル率・回収率等の維持・向上（数値目標）

リサイクル率・回収率の2007年度実績は表2に示すとおりです。表中、ガラスびんについては「リサイクル率」も参考指標として加えています。また、アルミ缶は2010年度目標を見直し、「90%以上」に引き上げています。段ボールは回収率の計算方法を改訂しました。

2007年度実績を見ると、目標を既に上回っている容器では引き続きその水準が維持されており、他の容器でも着実にリサイクル率等は向上しています。今後とも、分別排出を行う消費者、分別収集を行う自治体の皆様のご協力をいただきながら、リサイクルの推進を図っていく所存です。

表2 リサイクル率・回収率に関する2007年度実績

素材	指標	2010年度目標	2007年度実績	(参考) 2006年度実績
ガラスびん※1	カレット利用率 (リサイクル率)	91%以上 (70%以上)	95.6% (70.6%)	94.5% (68.4%)
PET ボトル	回収率	75%以上	69.2%	66.3%
紙製容器包装	回収率	20%以上	15.4%	15.2%
プラスチック製 容器包装	収集率	75%以上	58.1%	54.0%
スチール缶	リサイクル率	85%以上	85.1%	88.1%
アルミ缶※2	リサイクル率	90%以上 (85%以上)	92.7%	90.9%
飲料用紙容器	回収率	50%以上	41.1%	37.4%
段ボール※3	回収率	90%以上	95.5%	93.3% (98.1%)

※1 ガラスびんは () 内の「リサイクル率」を参考指標として加えた。

※2 アルミ缶は2010年度目標の見直しを行った。()内は当初目標。

※3 段ボールは回収率の計算方法を改訂した。()内は旧計算方法による06年度実績。

■リサイクル推進のための事業者の取り組み

事業者においては、リサイクル性の向上のための技術開発や各種の普及・啓発活動、および自主回収の拡大・研究活動を展開しました。主な事例を表3に示します。詳細は各団体資料をご参照ください。

表3 リサイクル推進のための事業者の取り組み事例

項 目	取り組み事例
リサイクル性の向上	<p>つぶし易い容器包装の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 段ボール業界としてたたみ易い段ボールの具体例を調査し、ホームページ掲載に向けたデータ整理を行った。(段ボール) ・ 紙箱にミシン目を入れて廃棄時に折りたたみ易くする工夫や、複合容器だが単一素材に分離容易な容器の開発などが取り組まれている。(紙製容器包装) <p>減容化可能容器、洗い易い形状の研究・開発等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つぶし易さ、汚れの付着しにくさ、洗い易さ等の改善事例を収集し、その結果を3R推進事例集として取りまとめ、関係部署に紹介。また、ユニバーサルデザインを考慮した減容化容器の開発・検討を継続中。(プラスチック製容器包装) <p>リサイクルしづらいラベルの廃止、はがし易いラベルの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アルミ箔ラベルを使用しない等ガラスびんの3Rを推進するための自主設計ガイドラインを設定し、びんメーカー、主要ボトルラ団体へ協力要請を行った。(ガラスびん) <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PETボトルの自主設計ガイドライン遵守を目的にガイドライン分科会にて、着色ボトルなどの調査を行い、問題のあった企業にはその遵守を要請し、是正を図った。(PETボトル)
洗淨・分別排出等への普及啓発	⇒10ページの「各団体の情報提供・普及活動」をご参照ください。
自主回収の研究・拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小売酒販店で酒パックを回収するエコ酒屋の取り組みなどを進めている、NPOと協働した「酒パックリサイクル促進協議会」の活動を支援している。(紙製容器包装) ・ 2005年度より、集団回収の調査の上、研究会開催及び調査結果公表並びに支援事業を継続的に実施。(スチール缶) ・ 自治体ルート以外の回収割合向上を目指して、全国800の回収拠点にアンケート調査を実施。(アルミ缶) ・ 紙パック回収ボックスを学校、自治体、市民団体、作業所、企業およびスーパー等へ1,980個(過去累計で12,545個)配付。(飲料用紙容器)

1.4 その他識別表示等の推進

その他各団体においては、自主設計ガイドラインの策定・運用による環境配慮設計の推進、容器包装への識別表示の実施率の向上などを展開しています。詳細は各団体資料をご参照ください。

2. 主体間の連携に資する取り組みの実績概要

2.1 関係八団体共同の取り組み

容器包装リサイクル法改正の趣旨を踏まえ、消費者・自治体・事業者による主体間の連携を進めることが必要との認識に基づき、当連絡会では事業者としての自主行動計画推進と並行して、各主体の意見交換を促進するためのフォーラムの開催、啓発の場としてのセミナーの開催や展示会への共同出展など、様々な取り組みを推進してまいりました。表 4 がこれまでの主な取り組み実績です。2007年度から 2008 年度にかけての取り組みの詳細については、次ページの参考 1 をご参照ください。

表 4 これまでの主体間連携のための取り組み

年 度	主な取り組み
2006	<ul style="list-style-type: none"> ■ フォーラム 『容器包装リサイクルフォーラム in 横浜』(8/29～30 横浜市) ■ セミナー 『みんなが主役！共に行動するための 3R セミナー』(2007 年 2/28 東京都北区) ■ 展示会への共同出展 3R 活動推進フォーラム全国大会 (10/19～21 名古屋市) エコプロダクツ 2006 (12/14～16 東京ビックサイト) ■ 共通ポスター作成 ■ 各団体ホームページのリンク化
2007	<ul style="list-style-type: none"> ■ フォーラム 『容器包装 3R 推進フォーラム in 神戸』(9/19～20 神戸市) ■ セミナー 『みんなが主役！共に行動するための 3R セミナー』(10/19 北九州市) 『みんなが主役！共に行動するための 3R セミナー』(2008 年 2/18 川崎市) ■ 3R リーダー交流会 4 回の交流会を実施 (7/31・9/7・11/30・2008 年 1/17) ■ 展示会への共同出展 3R 活動推進フォーラム全国大会 (10/17～19 北九州市) エコプロダクツ 2007 (12/13～15 東京ビックサイト)
2008 (予定を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ■ フォーラム 『容器包装 3R 推進フォーラム in 東京』(10/6～7 東京都江東区) ■ セミナー 京都市での開催を予定 (2009 年 3/7) ■ 3R リーダー交流会 5 回の交流会を実施・実施予定 (6/30・8/27・10/17・12/19・2009 年 1/16) ■ 展示会への共同出展 3R 活動推進フォーラム全国大会 (10/24～26 山形市) エコプロダクツ 2008 (12/11～13 東京ビックサイト) ■ 3R 推進団体連絡会ホームページの開設 ■ AC (公共広告機構) 支援による啓発事業の展開

青文字の項目は次ページ参考 1 に紹介

フォーラムの開催

3R推進団体連絡会の「主体間の連携に資する取り組み」の一環として、自治体担当者の方を主な対象とするフォーラムを開催しました。このフォーラムでは、容り法の改正を経て、容器包装3Rと分別収集の先進的な取り組み事例の学習、それらに係わる情報交換・議論等のプログラムを通じ、消費者・自治体・事業者がどのような連携の形を目指したらよいか話し合い、方向性を共有することを目的としています。

●2008年度フォーラム in 東京(2008年10月6, 7日)

今年で3回目となるフォーラムは、「消費者・自治体との共同による容器包装リサイクルのよりよい未来をめざして」をテーマに、10月6日・7日の2日間にわたり開催されました。

初日は会場である東京国際交流館に365名の来場者を迎え、慶應大学経済学部細田衛士教授の基調講演や5つの分科会が行われました。分科会のテーマは、リデュース・リユース・分別収集・多様な民間システム・市民参加の実現です。

2日目は79名の参加で、東京都港区の港資源化センターや民間プラスチック処理施設などの視察と意見交換を行いました。



フォーラム全体会



フォーラム分科会

セミナーの開催

容器包装に関する消費者・自治体・事業者の取り組みの現実を知ること、地域での3R活動をするにあたっての課題解決など、様々な主体と共によりよい取り組みにつなげていくためのきっかけづくりとなることを目指してセミナーを開催しています。

テーマは、『みんなが主役！共に行動するための3Rセミナー』と掲げて実施しています。

なお次回は、2009年3月7日に京都市での開催を予定しています。

●2007年度第2回3Rセミナー(2008年2月18日)

2007年度2回目のセミナーは、神奈川県川崎市で行われました。

当日の参加者は86名。地域の『ごみ減量等推進員』や、『市民会議、協議会・審議会委員』等、日々地域で活動されている方々の参加が全体の4割を占めており、NPO等を含めると市民のご出席が5割を超える結果となりました。



セミナー風景(神奈川県川崎市)

3Rリーダー交流会

2007年度より、消費者・事業者のネットワーク構築の場として交流会を実施しています。昨年度は年4回の交流会を開催しました。消費者(10名)および事業者(8名)がそれぞれの立場からの情報提供、意見交換を行い、容器包装の3Rを推進するために必要とされる情報の、表現方法や発信手法についての意見交換がされました。

本年度交流会では、消費者メンバーが過剰・無駄と思われる容器包装を具体的にリストアップし、事業者側から、容器包装の必要な機能を解説しながら、無駄か必要か話し合いをしました。

2.2 共通のテーマに基づく各団体の取り組み

上記の「共同の取り組み」に加え、本自主行動計画では「①各種情報提供や普及活動の推進」「②調査研究活動」を主体間の連携に資する共通テーマとして掲げ、各団体にて取り組むことを促しています。2007年度も引き続き、多様な各種啓発活動、交流活動、調査研究活動が展開されました。主な取り組み内容は以下の参考2をご参照ください。

(参考2) 各団体の情報提供・普及活動／調査・研究活動の例

情報提供・普及活動

● 3Rポスター・リーフレットの新規作成と配布

◇ガラスびんリサイクル推進協議会では、昨年のガラスびんの3R早分かりムービー(DVD)「ガラスびん3R作戦ペンギン南極へ帰る」に続いて、ポスターとリーフレットを作成・配布しました。

より多くの方の活用をお願いしています。



リーフレット

ポスター

● 広報誌の発行

◇PET ボトルリサイクル推進協議会では、3R推進情報を幅広く提供するため広報誌RINGを年2回発行しています。詳細はホームページにてご覧下さい。



RING20号(2007年11月発行)

RING21号(2008年4月発行)

● 3R改善事例集を作成・配布

◇紙製容器包装リサイクル推進協議会では、紙製容器包装の3Rで実績を上げている各社の成果をまとめた「3R改善事例集」を作成しました。

業界全体のレベルアップの促進を図るとともに、主体間連携のための情報提供ツールとして活用・配布しています。



3R改善事例集

● 自治体との意見交換会を実施

◇プラスチック容器包装リサイクル推進協議会では、昨年度に引き続き、2008年1月に約30の自治体と交流会を開催し、意見交換を行いました。



自治体との意見交換会

●啓発小冊子等作成・配布、環境展での啓発

◇スチール缶リサイクル協会では、啓発用3分ビデオを新規作成すると共にHPでも配信するようにしました。小学生向け小冊子「リサイクルといえばスチール缶」を増刷し、小学校や製鉄所見学者等へ配布、3R推進の普及啓発を実施しました。また普及啓発ポスターを新規作成し、全国へ配布しています。更に、スチール缶リサイクルの普及啓発のため環境展等への出展を拡大しています。



環境フェア in KOBE
で磁選機を体験される
鴨下元環境相

普及啓発ポスター「次も鉄～」

●アルミ缶回収の優秀校及び協力者の表彰

◇アルミ缶リサイクル協会では2007年度のアルミ缶回収の優秀校として68校、優秀協力者として61の個人・団体、優秀回収拠点として1社を表彰しました。この内、関東地区の優秀協力者・回収拠点には2008年2月に東京一ツ橋如水会館にお集り頂き、合同表彰式を開催致しました。



優秀協力者・回収拠点の表彰風景

●地域会議、リサイクル講習会、出前授業

◇飲料用紙容器リサイクル協議会では、地域住民・自治体・学校関係者・回収業者・製紙業者の全関係者に参加頂くリサイクル促進協議・情報交換・啓発を実施し、県

単位の地域会議を3回、市町村単位のリサイクル講習会を6回、小学校での給食牛乳を通じた出前授業を6回実施しました。

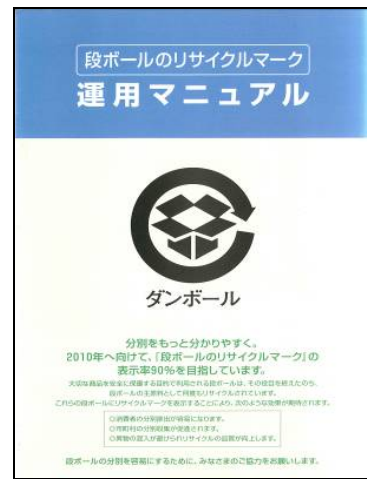


リサイクル講習会（上）・地域会議（下）

●各種イベントにおける広報活動等

◇段ボールリサイクル協議会では、以下のような広報活動を展開しました。

- ・各地区段ボール工業組合のセミナー
- ・古紙再生促進センター主催「紙リサイクルセミナー」
- ・「段ボールのリサイクルマーク運用マニュアル」の作成



段ボールのリサイクルマーク運用マニュアル

調査・研究

●リターナブルびん利用促進モデル事業

◇ガラスびんリサイクル促進協議会では、大手量販チェーン：西友荻窪店・吉祥寺店において、リターナブルびん促進モデル事業に取り組みました。

効果的な売り場づくり・効果的な販売促進策・環境啓発の仕掛けづくりを2店舗で展開し、顧客の環境意識の変化や売上変化について効果分析し、普及啓発リーフレットを作成し配布しました。(経済産業省委託事業)



モデル事業用ネックリンガーと販売風景

●自治体との3R連携研究会を開催

◇PET ボトルリサイクル推進協議会では、自治体と事業者の連携を進めることを目的に「PET ボトル 3R 連携研究会」を開催しています。2007年度は、5市区(川崎市、日野市、柏市、千代田区、中野区)と4回にわたって意見交換等を行いました。2008年度は参加自治体を拡大し、活動を進めています。



柏市リサイクルセンター選別ライン見学

●組成分析などの現場調査を実施

◇紙製容器包装リサイクル推進協議会では、自治体の分別回収の実状について6市のヒアリング調査と、3市の組成分析調査を実施しました。



紙製容器包装の組成分析調査写真

◇プラスチック製容器包装リサイクル推進協議会では、年間4~5自治体の分別収集したプラスチック製容器包装の組成分析調査を継続して行っています。また、より効果的な分別収集・再商品化を目指し、自治体とのモデル事業に取り組んでいます。



プラスチック製容器包装の組成分析調査写真

●集団回収の現状調査・普及拡大

◇スチール缶リサイクル協会では、2005年度より、全国数十ヶ所(北海道~九州)について、集団回収の現状を継続調査しました。その調査結果を踏まえ、昨年度も協力していただいた自治体関係者と研究会を開催、また、情報公開のためのフォーラムを開催しました。なお、調査資料は、情報提供のため全国の区市へ配布しました。さらに、調査結果より集団回収が3R推進普及啓発に効果があることが判明したため、主体間連携に資する取り組みとして、2007年度より経済産業省等の後援を得て「実践

活動である集団回収を通じて、優れた環境学習に取り組む小学校への支援を開始しています。また、2008年度より「民間団体によるスチール缶集団回収への支援」を開始しました。スチール缶リサイクルの実態調査も行っています。



集団回収
現地調査
の様子

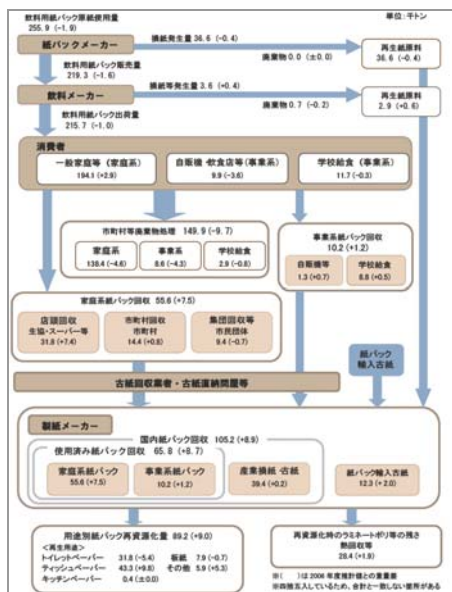
集団回収
フォーラム



●リサイクルフローなどに関する調査

◇アルミ缶リサイクル協会では、リサイクル率に影響する使用済みアルミ缶の海外輸出について調査し、2007年度から参考として輸出分を含めたリサイクル率を公表することになりました。

◇飲料用紙容器リサイクル協議会では、1995年より独自調査による飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査を毎年実施しています。紙パックの各分野ごとの回収率の把握、資源のマテリアルフローの作成、回収業者・再生紙メーカーでの買取り価格調査などを行うとともに、その結果を公表してきました。



紙パックマテリアルフロー調査

●3R事例収集やリサイクルマークの調査

◇段ボールリサイクル協議会では、段ボールの3Rに係る事例の収集(面積縮小・軽量化段ボール、たたみ易い段ボール)や、家庭から排出される段ボールの家庭への搬入経路別、用途区分別リサイクルマーク表示率の調査(2007年9月)、段ボール製造事業所における段ボールのリサイクルマークの印刷調査(2007年10月から3か月ごとに実施)を実施しました。

<開封時>



<解体時>



段ボールの3R事例

3. 今後の取り組み

各団体による3R自主行動計画を着実に進めていきます。

当連絡会の構成各団体では、引き続き2010年度の目標年次に向け、リデュース・リユース・リサイクルの取り組みを進めていきます。また、リデュースやリサイクルの進展度合いを示す指標についても、さらにデータ精度を高めていくべく努力する所存です。

主体間の連携に資する取り組みをさらに広げ、深めるための取り組みを展開します。

フォーラム・セミナーの開催、展示会への出展といった共同の取り組みも現時点で3年目を迎えており、これまでの蓄積を活かしてさらに連携を深めるための礎ができつつあります。また、構成各団体が独自に展開する連携の取り組みも、当連絡会の取り組みとの相互作用によって活発化しています。

さらに、2008年7月からACの支援による各種媒体を通じた普及啓発も始まりました。

2009年も引き続きAC支援事業を継続すると共に、連携推進のための各種取り組みを深化させ、消費者、自治体との連携をしっかりと根付かせていきたいと考えます。

今後とも消費者・自治体・国等の関係者の皆様のご指導、ご協力を賜りますようお願いする次第です。